

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第86号 2020年3月

発行人：後藤 克彦 編集長：猪名川 一雄 事務局長：吉野 博明
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684

2020年新年会を開催

2020年1月11日(土)、目黒を代表するランドマークビル・アルコタワーの中にあるアルコザガーデンにおいて目黒稲門会新年会が開催されました。アルコタワーは雅叙園と同じ敷地内にあり、地上19階建ての流線型の外観、大手外資系企業が入居しています。今回初めて新年会の会場となりました。

当日は早稲田大学からの来賓として、三木省吾・早稲田大学校友会事務局長・総長室副室長兼校友課長、岡本宏一・早稲田大学プロパティマネジメント代表取締役社長、後藤由美子・前早稲田大学職員にご出席頂きました。出席者総数74名(来賓5名、会員・ご家族59名、学生5名、講演聴講者5名)。

午前11時30分、石川智子副事務局長の司会により第1部講演会を開会、「創部百周年の取組み」と題して室伏 渉早稲田大学相撲部監督に講演頂きました。(講演要旨後述)



次に青木英二目黒区長より新年のご挨拶を頂き、後藤克彦会長から目黒区サクラ基金寄付目録(ボランティア募金を原資とし、今回で6回目)が区長に手渡されました。



第2部懇親会に入り、新年の会長挨拶(別掲)に続いて来賓の三木校友会事務局長にご挨拶を頂き、吉本政治相談役の乾杯の発声により懇親会が始まりました。



懇親会の冒頭では米寿を迎える林田雅敏相談役を祝い、田添麻友会員より、お祝いの花束が贈呈されました。

雅叙園の正面に面した大きな窓から新春の光が差し込む中、会場には華やかなムードが漂い、和やかに会話が弾みました。

しばらくの歓談の後、早稲田大学相撲部と所沢キャンパス祭実行委員会の現役学生5名が紹介され、壇上で挨拶がありました。



また、小杉 哲部会長よりボランティア募金活動への一層の協力をお願いしました。

盛会の中、司会より校歌斉唱が告げられ、松田哲也会員による指揮で都の西北を斉唱。中締めは、吉田博行相談役の挨拶と参加者への謝辞の後、三三七拍子でお開きとなりました。(笠谷 記)

後藤会長挨拶



明けましておめでとうございます。

今年は7月24日から第32回の東京オリンピックが開催されます。参加予定国は205で、参加人数12,000名以上と言われています。ちなみに昭和

39年の第18回は開催日10月10日で、93参加国、5,152名でした。昨年のラグビーワールドカップと同様に選手だけでなく、国民皆が「ワンチーム」になって盛り上がる年になると思います。

目黒稲門会も昨年からの設立20周年記念イベントの最後のひとつである、会員による芸術作品展が2月4日からスタートします。目黒区美術館区民ギャラリーで、出展作品は80点以上を予定しております。皆で盛り上げていきましょう。

また、今後の課題として日常の部会活動は参加者数が少なくなっています。是非、積極的なご参加をお願いいたします。会員の皆様、ご家族の皆様が健康で楽しい年になることを祈念いたします。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

室伏 渉・相撲部監督講演要旨

早稲田大学相撲部は1917年（大正6年）に創設され、今年で103年を迎える。OB数は100名、インカレ5回優勝（前回優勝1935年）、過去、4名の学生相撲力士、3名のプロ入り力士を輩出している。

2005年より相撲部コーチに、2012年に監督に就任した。監督を引き受けた時の部員数は2名であったが、現在、9名（マネージャー含む）まで増えた。部長、総監督、監督、コーチ（3名）の指導体制で指導している。

優秀な学生を獲得、育成するために次の取り組みを行っている。①リクルート活動・・・各高校の主要大会への視察、勧誘を年6～7回行っている。②紹介資料を高校に持参あるいは試合会場で配布、また受験から卒業後の就職についての父兄への説明・・・他校との競争は熾烈。有望な学生と保護者には理想だけでなく、入試制度など現実をしっかりと話す。③7月開催サマースクールへ参加し相撲部の生活体験をしてもらい受験アドバイスをを行う。④受験指導・・・小論文や面接対策など受験指導もする。相撲部に関わる人や、「早稲田杯」の開催などを通じて生まれる人の輪には大きな価値がある。⑤広報宣伝活動のため、著名校友で好角家のデーモン閣下や、やくみつる氏に協力を依頼・・・一般学生の勧誘に絶大な効果がある。⑥サポーターズ倶楽部の発

足・・・目黒稲門会をはじめ、サポーターズ倶楽部を通じた支援にも心から感謝したい。

2017年、100周年の年に東日本学生相撲選手権大会団体でAクラス決勝トーナメント進出（9年振り）、明治を3-2で破りAクラス完全復帰した。

2019年には選抜宇和島大会で本校史上初予選で強豪日大を3-2で破り（59年振り）団体ベスト8となった。また、選抜宇佐大会では本校史上初の個人準優勝を果たすなど、主将の橋本君（当日新年会参加）を筆頭に皆が活躍してくれている。これからも益々、早稲田の相撲部が存在感を増していけるよう尽力していきたい。

サポーターズ倶楽部会合模様





各部会からの案内・報告

囲碁部会

11月18日(日)にオール早稲田囲碁祭世話人会が大隅記念タワーレストラン「森の風」にて開催された。議題はオール早稲田囲碁祭及び稲穂会囲碁大会が第20回記念大会を迎えるので、東京23区並びに都下及び近県の校友の皆様の多数の参加を図る事で一致した。

<大会日程>

6月6日(土) 第20回記念オール早稲田囲碁祭
日本棋院市ヶ谷本院

9月20日(日) 第20回記念稲穂会囲碁大会
目黒稲門会はオール早稲田囲碁祭には2チーム10名の参加を目指しています。

定例囲碁部会は毎月第三木曜日午後1時～5時まで下目黒住区センター2階にて開催しております。奮ってご参加をお待ちしております。

囲碁部会長 保井 正

新年会出席者(敬称略、五十音順)

(来賓)

青木 英二 目黒区長
室伏 渉 講師 早稲田大学相撲部監督
三木 省吾 早稲田大学校友会事務局長・総長室副
室長兼校友課長
岡本 宏一 株式会社早稲田大学プロパティマネジ
メント代表取締役社長

後藤由美子 前早稲田大学職員(総長室校友課)

(招待現役学生)

橋本 侑京(相撲部主将・スポーツ科学部4年)、
富樫みちる(相撲部マネジャー・文化構想学部4年)、
千野 愛実(人間科学部3年)、
三島 沙羅(人間科学部2年)、
中村 陽介(人間科学部1年)

(会員・ご家族)

安藤 孝、安藤虎雄、安藤嘉昭、石川智子、
市川 亘、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤 悠、
猪名川一雄、井村正陽、井村恵里子、岩佐好恭、
岩佐美奈、岩崎正夫、岩田 修、鶴野洋治、
大内久美子、大内秀明、大久保健治、大杉邦雄、
大竹一子、大野利幸、奥村忠男、尾崎 充、
笠谷興一郎、梶 恵作、加藤玲子、金井豊男、
狩野俊夫、川井信義、川崎秀一、川崎真樹子、
小杉 哲、後藤克彦、後藤眞由美、佐伯文子、
佐久間 喬、高橋圭吾、田島順一郎、田添麻友、
地田博昌、手塚仁雄、永井正孝、永田耕治、
服部尚彦、林田雅敏、細谷 清、古矢美美子、
堀井良造、牧野武夫、松田哲也、宮村直身、
村上 柁、村山 弘、保井 正、吉田博行、
吉田千代、吉本政治、吉本美恵

(講演聴講者)

室伏 博、室伏節子、福田祐子、薄井枝里子、
折原圭太

美術・歴史鑑賞部会

2020年2月の鑑賞会

「ブタペスト-ヨーロッパとハンガリーの美術400年」展

ハンガリーの首都ブタペストにある2つの美術館のコレクション展。

ルネッサンスから20世紀初頭までの名品が一堂に会する。

場所：国立新美術館(東京・六本木)

日時：2020年2月19日(水)

午前10時集合

国立新美術館入口付近

美術・歴史鑑賞部会長 永井正孝

カラオケ部会

11月8日(金)の部会への参加者は3名と10月の2人に引き続き少なかったため、12月の部会に向けてカラオケ部会存亡の危機を訴えたところ、功が奏したのか12月13日(金)の部会には6人の参加を得た。1月10日(金)にあった部会には、目黒稲門会の会員ではないが、会員の友人の女性が長年部会に参加していた方が、久しぶりに来られ、風邪で数回休まれていた、佐藤副部長も参加して参加者は5人を数えた。他にやる事がある為か参加人数がなかなか増えないのは、部会長として気に掛かるころである。

カラオケ部会長 奥村忠男

俳句部会

第124回 萩句会

日時 1月13日(月)14時～17時

(順不同)

川井素山 江戸前の銀鱗はねる漁始
保井寶正 独楽のごと柚子湯の柚子を廻しけり
佐久間喬 令和の子一人加ふる祝箸
丸山酔宵子 湯豆腐や拍子木の音遠ざかり
吉田啓悟 バシバシと警策の音氷柱落つ
青木英林 期末試験オリオンおわす夜空には
山本草風 暁闇を白く染めゆく淑気かな
佐久間たか子 昼暗き熊野中辺路風冴ゆる
渡辺鯨波 恙なく平凡に生き根深汁
後藤克彦 冬帽子置きて予約の席とする
永井正孝 年神とおかざり並ぶピアノうえ
原 晶如 その声に元気をもらふ寒稽古
金森純女 初硯かほりしづかに部屋に満つ
青葉ひかる 突き刺して心の氷柱砕けよと

中原主宰の評から

暁闇を白く染めゆく淑気かな

日の出前の暗闇から空が赤く染まっていくのを、「白く」と言うことで、新年の厳かなすがすがしい気配が感じられる。

俳句部会長 佐久間 喬

ボランティア部会

当部会も9年目を迎えました。目黒区サクラ基金や災害義援金等の募金活動だけでなく、目黒川沿道清掃作業などみずから汗を流す活動も行っています。また、寄付額も累計で125万円を超えました。

12月5日(日)9時半、会員8名が軍手とレジ袋を持って目黒川にかかる田道ふれあい橋の上に集合しました。春夏秋の毎年3回行われる目黒川沿道清掃作業に参加するためです。ペットボトルや空き缶などのゴミを主催者が用意した大型炭バサミで拾い集めました。次回は3月6日(金)の予定です。



ボランティア部会長 小杉 哲

ゴルフ部会

第46回ゴルフ部会を4月22日(水)富士ヘルスカントリークラブにおいて開催いたします。皆様奮ってご参加ください。

(費用)

プレー費(ランチ込) 11,000円

会費(バス代等) 10,000円

ゴルフ部会長 大杉邦雄

よん月会

昨年5月から「よん月会」と部会名を改称しましたが、幸いにして、その後の月平均参加者数は13名でした。まだまだもっと多くの皆さんの参加を得たくよろしくお願ひいたします。

よん月会部会長 村山 弘

早稲田スポーツ観戦部会

12月1日(日)関東大学ラグビー対抗戦早稲田大学対明治大学は互いに対抗戦完全優勝をかけ満員の秩父宮ラグビー場で行われ16名の会員と応援観戦に行きました。前半明治に先制トライを許しましたが早稲田もすぐに反撃同点にしましたがPGを決められ7対10で前半を折り返しました、後半は明治の堅い防御と早稲田の反則により猛攻を受け7対36で惨敗しました。試合後の反省会では大学選手権でのリベンジを祈願し酒を飲み交わしました。



新年を迎え1月2日(木)に大学選手権準決勝が秩父宮ラグビー場で行われ関西の天理大学と対戦し52対14で圧勝し、決勝の舞台に進むことが出来ました。1月11日(土)新国立競技場で早稲田対明治の決勝戦が行われましたがその日は目黒稲門会新年会と重なり残念ながら応援観戦は僅かな会員しか行かれませんでした。早稲田は前半の大量リードを守りきり45対35で勝利し早稲田が11年ぶりの覇権奪回に成功しました、

この春には有力な新人数人入部します。早稲田大学ラグビー部黄金期が始まります。観戦部会も益々熱く応援に駆けつけたいと考えています。

早稲田スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

ウォーキング部会

ウォーキングの後のビールの美味しいことこの上ありません。この喜びを皆さんに味わっていただきたいと常々思っています。初参加の方、大歓迎です。

<実施報告>

11月例会 設立20周年記念ウォーキング～紅葉の長瀬・宝登山を巡る

11月19日(火)～20日(水)参加11名

12月例会 神田川支流・蟹川沿いに母校まで歩く
12月17日(火) 参加11名

1月例会 池上七福神巡り
1月4日(土) 参加14名

<11月例会に参加して>

今回は20周年記念事業の一環として1泊2日で「長瀬・宝登山」を巡りました。

前日までインフルエンザが心配された小杉さんも解熱し、元気に参加されました。

長瀬駅に集合後即長瀬の名勝「岩畳」に。広大な岩畳と紅葉と川の碧がとても印象的でした。

岩畳散策後、「長瀬ライン下り」の送迎バス乗り場へ。そこからバスに乗り「親鼻橋」船着き場へ。小舟に乗り込み、救命胴衣を着用。小舟の先頭と後尾に船頭が立ち、長い竿で川底を蹴り操船します。乗客は左右がバランスするように調整されます。浅瀬では船底に岩がゴツゴツと当たり、船頭は「船底に穴が開いたら、足で押さえて下さい。」と明るく冗談を言いますが、乗客は笑いと不安半々です。飛沫除けのビニールシートで乗客全員防護。幸いにも衣服がびしょ濡れになることは避けられました。途中秩父鉄道の鉄橋を通り抜けますが、台風19号による増水の爪跡が橋脚の遙か上方に見え、その凄さにビックリします。舟は先程の岩畳みに無事到着。さてこのスリルある長瀬ライン下りですが、この季節の土日祝日は乗船に3時間待ちがザラとか。乗船待ちのない平日のウォーキング部会活動の恩恵をつくづく感じます。

この岩畳から「野上駅」までは多少のウォーキング。この野上駅は林田先輩が戦時中疎開しておられた場所です。林田さん曰く「山々は変わらないけど、家々の佇まいに当時の面影はないよね」とか。

一句「変わらぬは燃ゆる山なみ青き空」(市川真至)

この野上駅から「上長瀬駅」まで秩父鉄道に乗り、上長瀬駅近くの「月の石もみじ公園」へ。紅葉がライトアップされ、とても綺麗でした。散策後民宿「勉強屋長瀬荘」へ。そして夕食前に風呂場へ。先陣は風呂の温度調整が解からず、水風呂に浸かったようです。誰も風邪ひかず良かったです。夕食は豪華な料理。宿のご主人が水風呂のお詫びとして日本酒をサービスしてくれました。夕食兼酒宴の後各自部屋に戻り就

寝。

翌日は朝食後宿のご主人が宿のマイクロバスで「宝登山ロープウェイ乗り場」までガイドを兼ねて送って下さいました。親切で大変面白いご主人でした。また、このご主人によれば、この民宿をよく利用している大学は早稲田とか。ご縁も感じました。



ロープウェイで宝登山山頂へ、多少の登り。展望台からは「武甲山」等周りの山なみが素晴らしいパノラマでした。山頂付近には宝登山神社奥宮がありました。「日本武尊」のいわれのある神社です。小さいけれど何故か「大社造り」です。その古さが判ります。帰りのロープウェイで麓に戻り、煌びやかな宝登山神社本殿へ。これは「権現造り」です。江戸時代から明治時代にかけて、隣接する「玉泉寺」住職「榮乗」の尽力により造営されたとか。本殿及び玉泉寺遥拝後、元養蚕農家の旧新井家住宅へ、また近くの酒蔵も見学しました。

見学終了後長瀬駅にて解散しました。私は昼食後川井大先輩と奥村大先輩と共に帰途につきました。全体的に長瀬の美しい紅葉と人々の温もりが印象に残ったウォーキングでした。(市川 亘 記)

<今後の予定>

2月例会 武士の町佐倉市を巡る

日時 2月18日(火) 13時

集合場所 京成佐倉駅改札外

3月例会 武蔵野三十三観音第9回

日時 3月17日(火) 13時

集合場所 西武池袋線武蔵大和駅改札外

4月例会 旧小松川閘門と小名木川を歩く

日時 4月21日(火) 13時

集合場所 都営新宿線東大島駅

5月例会 福生から玉川上水を歩く

日時 5月19日(火) 13時

集合場所 JR 青梅線福生駅改札外

参加される方は下記迄ご連絡ください。

吉野博明 携帯090-1880-3515

ご希望の場所がある方はお知らせください。参考にさせていただきます。

ウォーキング部会長 吉野博明

旅行部会

冬の青森の旅

今回の旅行部会は、目黒稲門会設立20周年記念旅行との位置づけで、クラブツーリズム「ゆっくり出発 早目のお帰りで楽しむみちのくの2泊3日の旅」で催行されました。

目黒稲門会の参加者は、記念旅行で21名の多数の方々が参加。シニアに優しいゆっくりの出発、羽田定刻13時15分に出発、青森空港14時35分着。

ホテルの迎いのバスで、初日の宿泊宿・南田温泉「ホテルアップランド」に無事到着。

沢山のリンゴを浮かべたリンゴ風呂温泉、青森名産のホタテと名物のせんべい汁、そこここに「リンゴ」を使った料理を満喫し「青森の味覚」を堪能。

元気印の皆さんは、寒さをものともせずカラオケで、さらに青森の夜を満喫されたようでした。

2日目は、バスガイドの青森の紹介—人口125万人、面積は東京・神奈川・千葉を合わせた広さである事、弘前の桜には290万人の観光客、リンゴの生産が全国の5割、長野が3割で日本一—などの説明を聞きながら、車窓から見る岩木山・津軽富士の美しい姿を眺めるうちに、日本一長い木造の三連太鼓橋に到着。



丹頂鶴自然公園での丹頂鶴の見学・散策し、例年より少ない雪の太鼓橋を慎重に渡り、かすむ岩木山をバックに写真を撮をパチリ。

次の目的地、文豪太宰治のゆかりの金木町の太宰治記念館「斜陽館」を見学。この斜陽館は明治40年に大宰治の父・津島源右衛門の建てられた豪邸の素晴らしいもので、過っての大地主・貴族議員を務めた政治家・企業家のすごさが、和洋折衷の建物の素晴らしさ・豪華な仏壇や家具類などが各部屋に見られただけでなく、このような太宰治の置かれた環境が忍ばれ、太宰治の作品に影響を与えたのではと感じられた、私にとって味わい深い貴重な施設見学となりました。

次に2日目の第2イベント、津軽鉄道の「ストーブ列車」で五所川原から津軽中里までの20数分間の旅。列車内のだるまストーブで焼いたするめの香りと味を満喫、女性乗務員の津軽色豊かなアナウンスを楽しみつつ、次なる2日目の宿泊宿「ホテル星野リゾート青森屋」に到着。

青森屋では、グレードの高いバイキングに舌鼓を打ち、食後にねぶたが飾られた舞台での津軽三味線と民謡、女性職員のスコップ三味線の余興と味わいながら、旅2日目を楽しく終えました。



3日目は、前日の好天とは打って変わって、バスで雪の八甲田へ！ロープウェイで吹雪の山頂駅に！

山頂は吹雪で何も見えず、これまで青森の「暖かさ」を味わってきた身に、ようやく北国青森を実感させられ、耳に痛さを感じる程の八甲田の寒さを味わい、これまで実感のなかった「八甲田雪中行軍遭難」の厳しさに想いを馳せる旅となりました。

最後は八甲田で冷えた体を「酸ヶ湯」温泉で癒し、青森空港を15時20分発・羽田に16時45分頃に無事到着。稲門会20周年記念旅行会を無事に、楽しく味わい深く終える事ができました。



井村部会長様はじめ参加された皆様にお世話になり、盛り沢山の記憶に残る楽しい「旅」をありがとうございました。

(安藤 嘉昭 記)

目黒わが町自慢

自由が丘 岩崎春雄(平成12年 法研)

自由が丘は、若者や女性に「お洒落で住みやすい」街として時々生活情報誌に掲載されている。

街の丁目は、1丁目から3丁目まであり、目黒区の最南端に位置する。自由が丘駅を中心に約250m位が商業区域とされ、その他は閑静な住宅区域といつてよい。

街の由来は江戸時代以来、現在の緑が丘から自由が丘まで一帯に田畑が多かった。そのため地元の人々は、地名を「谷畑」(やばた)と呼んでいた。

大正時代になり、デモクラシー運動が始まって自由を重んじる教育を標榜する動きが高まったことから、時の教育者・手塚岸衛によって「自由ヶ丘学園」が創立(昭和2年11月)された。これを契機に、自由を重んじる文化人(舞踏家・石井漠や小説家・石川達三、石坂洋次郎、画家・岡本太郎等)と住民の強い要望があり、街名を「自由ヶ丘」と名付けた。昭和2年8月東横線が開通された。この駅が九品仏寄りのため「九品仏前駅」とされていたが、同年11月大井町線が開通されたため、昭和4年10月東横線の新しい駅名を「自由ヶ丘駅」とした。昭和41年1月「自由が丘駅」と改称され、現在に至っている。

もっとも街のお洒落なイメージとして決定づけたのは、昭和35年作家 武田繁太郎(早大・独文科卒)の小説「自由ヶ丘夫人」であろう。彼は、この作品で「ハイソサエティな街」として表現した。作品は、発売されると忽ちベストセラーとなり、その後映画化されて街のイメージは一層広まった。他に、スイーツの店が集中するなかで作品に登場する洋菓子専門店「モンブラン」がある。売り場右側の壁一面を飾る東郷青児の壁画は、特に有名である。

また街のイベントとして、「桜まつり」や「盆踊り」、「熊野神社例祭」、「女神まつり」等が開催され、来街者で賑わっている。ことに、「女神まつり」は、商店街振興組合と街あげての一大イベントである。

街はこのように、現在も洗練されたショッピングタウンとして人気がある。



自由が丘駅前ロータリー

目黒の銭湯巡り

旭湯 奥村忠男(昭和41年 政経)

都立大学駅の前にある銀座コージーコーナーと菓子店蜂の家の間の小道を歩いて1分足らずの右手にあるのが、銭湯旭湯である。

記録にはないが伝聞では旭湯は昭和8年創業で今は三代目が店を守っている。昭和40年代の盛時には目黒区に48あった銭湯も今は僅か10軒しか残っていないとの事。何年か前に改装した時旭湯は番台方式を辞めて受付方式に変えてしまった。変えてしまったと言ったのは、番台が男なら一度は座ってみたい憧れの場所だからである。470円の料金を払ったら左右にある男女の浴室に行く。横に広がる7mのスペースに湯船が三つあり、一番広い湯船には10人位入れ設定湯温は42度。二つ目の湯船にはジャグジーが二つあり背中に当たる強烈な噴射が楽しめる。三つ目の湯船は少しぬるめで水深が1mある。後スチームサウナもある。銭湯定番の富士山などの絵はない。女湯も全く同じとの事であるが、旭湯は私が幼い頃故郷の茨木市で入っていた風呂屋と比べてかなり小さい銭湯である。ところで銭湯であるが、銭を払って湯を楽しむとは、言い得て妙であるが、公衆浴場の全国的通称は風呂屋である。昭和37年に東大正門前で三畳の下宿暮らしを一年した事があるが、その時に近くの風呂屋行ってからのことなので、なんと57年振りに銭湯を楽しむ事ができた。



会員ギャラリー

『ギリシャ テサロニキのエーゲ海を臨むテラス』
丸山忠生（昭和44年 法）



10年ほど前、オリーブの輸入でよくギリシャに行った際、ギリシア北部、エーゲ海のテルメ湾に臨む港市テサロニキにもよく行きました。アテネに次ぐギリシャで2番目に大きな都市で、旧マケドニアのアレキサンダー大王の異母妹が治めていた首都です。

夏ともなると真昼間は燦燦としたよりはギラギラした太陽が照り付け、40度を超しますが、木陰に入れば湿度が低いので非常に快適です。元々怠惰なギリシャ人は、木陰にデッキを持ち込み、新鮮な野菜とフェタチーズにオリーブオイルをたっぷりかけ、ワインを持ち込んで終日グダグダ過ごしています。

第4回目黒シティラン

第4回目黒シティランが11月24日（日）雨天の中開催されました。当会より蠣崎氏、狩野氏、村上氏、笠谷氏の4名が参加、小雨降る中、3名が力走。完走しました。本年は、蠣崎氏と笠谷氏は、ほぼ前回通りの記録で完走しましたが、狩野、村上両氏は、悪天候のため、また体調を崩し、前回の記録を更新出来ませんでした。来季は捲上重来を期して参加者を増やし記録に挑戦します。（笠谷 記）



設立20周年記念会員作品展報告

設立20周年記念目黒稲門会会員作品展が、2月4日から2月9日の間、252名の来場者を迎え、目黒区美術館区民ギャラリーにて開催されました。

本作品展は、20周年記念事業の締めくくりとして企画されたもので、本会のさらなる発展に寄与できることを願い、会員やご家族の皆様に参加して頂きました。

展示作品点数は、当初の予定数を超え計89点となり可動壁を追加して対応しました。絵画（油彩、水彩、パステル、デッサン、水墨画）30点、写真10点、書2点、俳画2点、陶器9点、手芸等9点が会員およびご家族より、俳句、旅行およびウォーキング部会よりそれぞれ15点、10点、2点が出展されました。会員ご家族より出展して頂いた作品数は16点で作品展をおおいに盛り上げて頂きました。



会場風景

出展者（敬称略、50音順）

浅海敏之、市瀬一江、井村恵里子、岩佐好恭、大杉邦雄、大竹 一子、大野利幸、大野幸子（故人）、笠谷興一郎、加藤玲子、金井豊男、後藤克彦、佐伯文子、佐久間たか子、澁谷瑠璃、杉浦良允、服部尚彦、堀合摩利、堀合義統、牧野武夫、丸山忠生、保井栄子、山内 宏、吉田博行、吉野美智子、【俳句部会】中原道夫、青木英男、青葉ひかる、金森純子、川井信義、後藤克彦、佐久間 喬、佐久間たか子、永井正孝、原 妙子、丸山忠生、保井 正、山本達人、吉田實三、渡辺巖太郎

【旅行部会】 8名

【ウォーキング部会】有志5名

出展作品の紹介は5月末発送予定の会報第87号に掲載される予定です。

一連の設立20周年行事を可能とした「設立20周年事業協賛金」を頂いた方々、各行事に参加して頂いた方々、ご支援を頂いた方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

設立20周年記念事業委員会